

報道関係 各位

2018年6月25日  
株式会社日本レースプロモーション

7月7日(土)～8日(日)  
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ  
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、7月7日(土)～8日(日)の2日間、静岡県駿東郡小山町 富士スピードウェイ レーシングコース(1周:4.563km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第4戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース55周(250.965km)にて争われます。

前戦、2スペックタイヤ制初開催となったスポーツランド SUGO 大会は、17周目のセーフティーカー導入のタイミングで透かさずピットに入った山本 尚貴(チーム・ムゲン)が、ポールポジションからスタートした野尻 智紀(ドコモチームダンディライアンレーシング)をパスし、トップを走っていた小林 可夢偉(カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)から実質トップを奪い、今季2勝目を飾りました。

第4戦が行なわれる富士スピードウェイは、国内最長を誇るメインストレートとコース後半はテクニカルコーナーが連続するサーキットであるため、最高速重視でダウンフォースと空気抵抗を減らすのか、コース後半の連続するコーナーを攻略するためにコーナースピード重視でダウンフォースを増やすのか。相反する要件を、如何にバランス良くセッティングができるかが一つのポイントとなります。

また今季2勝で21ポイントと、ランキング2位のニック・キャンディ(コンドー レーシング)に10ポイントの大差をつけてランキング首位に立ち独走態勢に入ろうかという山本に対して、開幕戦とSUGO大会の2大会で着実にポイントを獲得している野尻 智紀、中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)らが、その行く手を阻むのか。こちらも注目です。

なお、今大会もピエトロ・フィッティパルディ(ウオモ スノコ チーム ルマン)が欠場のため、第2戦オートポリス大会から出場しているトム・ディルマン(ウオモ スノコ チーム ルマン)が、引き続き出場します。前戦スポーツランド SUGO 大会で4位と、初の決勝レースで見事な結果を出したトム・ディルマンと、今大会まで欠場する福住 仁嶺(チーム・ムゲン)に代わり、前戦に続き出場するダニエル・ティクトゥムがどのような走りを見せるのか、目が離せません。

シリーズ折り返しとなる今大会は、今季後半戦を占う上でも重要な一戦となります。また、先日ル・マン24時間においてワンツーフィニッシュを飾った中嶋 一貴、小林 可夢偉の帰国後初レースとなる富士大会。どうぞご期待ください。

※今大会会期中、シェイクダウンが終わったばかりの新型車両『SF19』をピットエリアで一般公開いたします。8日(日)には、野尻 智紀のドライブによる『SF19』デモ走行を行います。



スポーツランド SUGO 大会を制し、今季2勝目を飾った山本尚貴(チーム・ムゲン)

## 公式予選

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

## 決勝レース

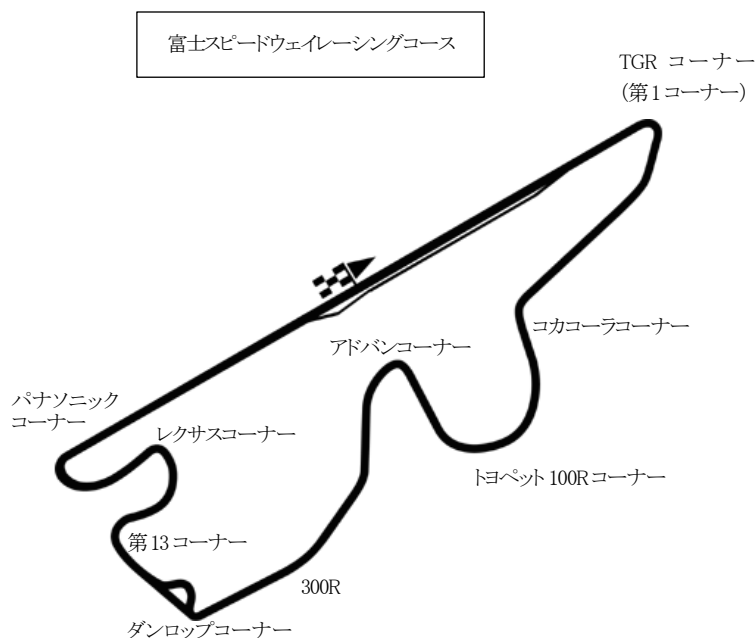
55周 (1周:4.563km×55周=250.965km)

## 富士スピードウェイレーシングコースについて

富士スピードウェイは、51年の歴史を誇る歴史あるサーキットです。

世界的に見てもとても長い、全長1.475kmのストレートが特徴の一つで、レース中のスリップストリームを使ったエキサイティングな追い越しを見ることができます。TGRコーナー(第1コーナー)は、メインストレートでスピードが乗った状態からのフルブレーキングによる進入が勝負所になり見どころの一つです。

また、アドバンコーナーから複合コーナーの300Rまでは、セッティング次第でダンロップコーナー手前の速度に大きな影響を及ぼします。シケイン形状のダンロップコーナーから、第13コーナー、レクサスコーナーの区間は、他のハイスピードエリアとは大きく異なり微妙なアクセルコントロールが必要です。最終コーナーのパナソニックコーナーの脱出速度が、メインストレートの最高速に大きく影響するため、丁寧に最短のライントレースが要求されます。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 エントリーリスト

2018年5月15日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ダニエル・ティクトウム Daniel Ticktum	1999/ 6/ 8	イギリス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台  
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

(車両: SF14、タイヤ: ヨコハマ)

## 2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

### ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	21	<b>11</b>	0	<b>10</b>	0	0	0	0
2	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	10	2	0	8	0	0	0	0
3	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	9	6	0	<b>3</b>	0	0	0	0
4	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	8	8	0	0	0	0	0	0
5	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	7	1	0	6	0	0	0	0
6	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	5	0	0	5	0	0	0	0
7	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	5	5	0	0	0	0	0	0
8	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	4	0	0	4	0	0	0	0
9	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
10	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	3	0	0	3	0	0	0	0
11	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
12	4	山下 健太 Kenta Yamashita	1	0	0	1	0	0	0	0
13	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1	0	<b>1</b>	0	0	0	0	0
14	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	0	0	0	0	0	0	0	0
15	37	J・ロシター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
16	2	国本 雄貴 Yuji Kunimoto	0	0	0	0	0	0	0	0
17	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
18	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	0	0	0	0	0	0	0	0
19	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
20	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
21	15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	0	0	0	0	0	0	0	0
22	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	0	0	0	0	0	0	0	0

\*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選1位

### チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	15   16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	20	10	0	10	0	0	0	0
2	3   4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	11	2	0	9	0	0	0	0
3	19   20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	8	8	0	0	0	0	0	0
4	5   6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライオンレーシング)	8	6	0	2	0	0	0	0
5	64   65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	8	4	0	4	0	0	0	0
6	36   37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリオン チーム トムス)	7	1	0	6	0	0	0	0
7	7   8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	5	0	0	5	0	0	0	0
8	1   2	JMS PMU/CERUMO - INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	5	5	0	0	0	0	0	0
9	18	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	3	0	0	3	0	0	0	0
10	17	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
11	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

\*表中ポイント数字の 太字：優勝

\*チームポイント：各チーム（エントリー）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントリー）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、予選1位のポイントは与えられない。

## —開催概要—

- 大会名称 : 2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ
- 開催日程 : 2018年7月7日(土) 公式予選  
2018年7月8日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 富士スピードウェイ レーシングコース(1周:4.563km)
- 主催 : 富士スピードウェイ  
FISCO クラブ (FISCO-C)
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)  
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)  
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)  
Honda ワンメイクレース事務局(HORS)
- 同日開催 : 2018年 全日本フォーミュラ3選手権 第5戦/第6戦  
N-ONE OWNER'S CUP Rd.9  
WAKO'S スーパーカートカップ第4戦・富士チャンピオンシリーズ第2戦

## 【TV放映予定】

### ■ BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第4戦 富士スピードウェイ』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がレポートします。今大会は、解説者に現在スーパーGTでチーム ルマンの監督として活躍する脇阪寿一を迎え、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○実況：ピエール北川

○解説：脇阪寿一

○ピットリポーター：松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間：2018年7月8日(日) 14:00～15:55

### ■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第4話： 2018年 6月 23日(土) 23:00～23:55

2018年 7月 1日(土) 26:30～27:25(再放送)

### ■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは [jsports.co.jp](http://jsports.co.jp) をご参照ください。

第4戦 富士スピードウェイ

予選 2018年 7月 7日(土) 14:20～(予定) J SPORTS 4 <生中継>

決勝 2018年 7月 8日(日) 13:45～(予定) J SPORTS 4 <生中継>

## 【映像の配信】

### ■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

### ■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

[superformulavideo-YouTube](https://www.youtube.com/user/superformulavideo)

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

### 【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

### 【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト  
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ  
i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook  
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula  
[https://twitter.com/SUPER\\_FORMULA](https://twitter.com/SUPER_FORMULA)

### 【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)  
大人:5,700円  
ペア券(大人2名):10,300円  
※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料
- 前売パドックパス  
大人1名:16,000円(観戦料込み)  
子供1名(小中学生):5,700円  
※子供用パドックパスの前売はございません。レース当日にお買い求めください。
- 前売ピットウォークパス  
予選日 大人1名:1,600円  
決勝日 大人1名:2,100円  
※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料

\*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。  
株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)  
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル  
e-mail:media@superformula.net  
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

## 【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

### 1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

### 2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格形式選手権シリーズです。

#### 2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※

※：レース距離は暫定。

#### 2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

### 3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
  - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
  - ・ドライバーズチャンピオンカップ
  - ・観光庁長官杯
  - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
  - ・トロフィー



#### 4. レース車両

##### ◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。  
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。  
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

##### ◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。  
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。  
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

##### (※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h  
その他大会……燃料流量90kg/h

##### ◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。  
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。  
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。  
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

##### (※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

##### ◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。